

新宮山彦ぐるーぷ第1909回

第47回社会貢献者表彰受賞報告会兼忘年会

◇実施日：平成28年12月10日(土) 17時～20時

◇場 所：阿須賀会館(新宮市阿須賀・阿須賀神社境内)

◇参加者：谷 公雄社長(㈱カマハラテック)、井上 訓常務(新宮信用金庫)、山室喜則(熊野本宮世界遺産センター館長)
以上招待者。

東真澄、山上皓一郎・昌子、松本 良・邦子、田中幸二・律子、中前道康・余志子、坪井幸生・富美、熊本左恵、桧尾香代子、浜 ひろ多、長尾起江子、背古勝子、久山久美子、沖崎吉信、玉置平八郎、木下嘉彦、大江加予子・徳子、畑林秀味・清子、生熊敏男・千満子、豊嶋寛、児嶋道夫、橋本 梓、濱野兼吉・小夜子、松本吉殖、中前 偉、川島 功、前田 正、樋口義也、高階鈴子・美根子、榎本康夫、奥村順夫、竹中卓治、吉沢あつし、山川治雄、栗原眞行、湯川一郎、梶野照雄、青木宏充、石橋哲郎・隆子。 計52名。

第47回社会貢献者表彰受賞式典が、去る11月28日(月)帝國ホテル東京・孔雀の間で執り行われ、600名が参席し、安倍首相夫人。安倍昭恵会長より賞状と副賞の日本財団賞50万円を授与されました。この受賞を会友の皆さんと喜びを分かち合う報告会兼忘年会として開催した。

会場設営は、15時頃より行われ、17時から参加者の記念撮影をする。地元新聞社2社の取材がある。

司会者・沖崎氏から冒頭、是非出席して頂きたかった玉岡憲明前世話人代表は、数日前に転ばれ肋骨にヒビが入り、欠席されるという残念なお知らせがある。

新宮山彦ぐるーぷ名は、第2回行事の際に、候補名から投票で決めた事、東真澄さんが保管していた「みんな ようきたのし！」横断幕を張った意味と経緯の説明がある。東さんありがとう。

玉岡さんは行仙宿に行かれた時は、物故者26名分の線香を手向けてご冥福をお祈りされています。我々も開会に先立ち、今日の山彦ぐるーぷの礎を築かれた物故者に黙祷！

社会貢献者表彰の経緯、表彰式典の様子は、配布資料を参照にして下さい。後程、表彰式典の動画・写真を投影致します。



賞状と創立40年・記録誌



司会者挨拶



物故者に黙祷！

川島世話人代表の挨拶は「今回受賞の功労者は二方あります。一方目は、昨年の玉岡さんの緑綬褒章受賞にご尽力頂いた県職の本日ご出席の山室様の計らいで、和歌山県推薦の選考書類として提出して頂いたお陰です。

二方目は、昭和59年から玉岡前世話人代表の下に、これまでの道普請に先輩諸兄が汗水を流された延1万8千人のお一人お一人のお陰です。この活動の積重ねが、高く評価され認められ受賞が出来たのです。

はからずも、華やかな表彰式に登壇させて頂き、ひとえに本日出席の皆様をはじめ遠方の支援者並びに物故者の方々のお陰であ

り、衷心より感謝と御礼を申し上げる次第です。

副賞の日本財団賞50万円は、先般発刊した「山彦ぐるーぶ創立40年の活動の歩み」記録誌費用及び行仙宿・行者堂の役ノ行者尊像は、現在修復中で来春修復後の開眼供養する費用に充当することになり、お陰で資金繰りが助かりました。

現在の新宮山彦ぐるーぶ活動は、会友の高齢化が進み、地元と若い人が少ないという課題があり、近畿圏の会友による広域化した活動になって来ている。皆様も当ぐるーぶへの入会勸奨をお願いします。

この会友の高齢化の負担軽減に、新宮信用金庫井上常務さんから山彦と50万ずつ出してモノレールを設置してはどうかと提起され、(株)カマハラテック谷社長に足らん分は出して付けて欲しいと相談とお願いをした。現地を見て「付けたら」と即決して頂き、また山主の上平一郎前下北山村村長さんの快諾を得て、補給路登山口から浦向道分岐下迄、標高差130m、長さ260mのモノレールが4月初旬に完工し、5月連休中に使用し、荷上げが本当に楽になりました。

(株)カマハラテック谷社長は、山彦の活動を理解して下さい、また行仙宿巡回を終えて玉岡さん親子が肩と腰にロープを結わえて下山される姿に感動したと、高額なモノレール一式を寄贈して下さい、又新宮信用金庫の行員一人一人の積立金である新宮しんきん世界遺産応援募金会からもモノレール駐機小屋とメンテナンス費用に50万円寄付して下さい、こんな有難いことはありません。

改めて(株)カマハラテックの谷社長様、信金井上常務様に、感謝と御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

最後に、この受賞を励みに、設立当初の会の趣旨と道普請は自分の修行だという奉仕の精神を忘れずに、当ぐるーぶ活動の継承・継続に精一杯努力する所存です。

皆様方には、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます共に受賞の喜びを分かち合う本席は、おおいに歓談され

楽しいひと時していただければ幸甚です」と挨拶がある。東真澄さんの乾杯！の発声で開宴。



世話人代表挨拶

東さん発声で乾杯！

折箱料理

しばらくして、社会貢献者表彰式典の動画・写真(梶野氏編集)が、OHPでスクリーン(中前氏借用)に拡大投影され、表彰式の様子が投影された。又、架设モノレール及び昨夏の持経宿改築作業も投影された。

久しぶりに会う会友とあちこちで集まって、歓談などで盛り上がる。地元の会友が約45名も参集下さり、順次自己紹介をする。



招待者

自己紹介と歓談



招待者から祝辞を賜る



招待者から紹介と祝辞を賜る、山室さんは、知事表彰、環境大臣表彰、緑綬褒章と3年連続し、今回で4年連続となり、推薦書類を知事秘書室へ送付したら、難しいとの電話があったが、取上げることなく書類を提出して貰ったとの裏話をして下さる。谷社長は、喜んで頂いて本当に嬉しい。井上常務は、世界遺産を応援しているので今後も社会貢献に寄与して行きます。と話された。



山彦恒例の炭坑節・東京音頭でフィナーレへ

名前は知っているがアツそうかと懐かしい会友の顔を思い出し、お互い認識して喜び合う自己紹介になった。宴たけなわとなる中、テーブル・椅子を片付け、新宮山彦ぐるーぷ恒例の炭鉱節と東京音頭を輪になって皆で踊る。



輪になって踊る



餅まき



閉会の万歳三唱！

踊り後、当初良く行われていた恒例の餅まき(1斗5升約750個)を行い、どっさり拾う人少ない方もあったが全員が拾って下さった。

沖崎・山上さん発声の万歳三唱！で20時に閉会となった。

会場の清掃・後片付けをして20時半に各自帰宅した。

終いまで手伝って下さった方々、裏方に携わられた大江・畑林さんら女性の方々、車で余った荷物を最後に搬送して下さいました。沖崎夫人にも感謝とお礼を申し上げます。

最後に、祝賀会ではなく報告会ということで、祝儀等は辞退する事を申し合わせていましたが、遠方の会友や岳友、欠席者から心温まるご配慮があり有難く頂戴しました、ご祝儀頂いた皆様方に心より感謝と御礼を申し上げます。

(写真：梶野・川島。 記：川島)

寄贈者(12名)

- ・林 一夫；1万円。
- ・山上皓一郎；清酒1升。
- ・谷 公雄；熊野三山2升。
- ・信谷佐恵子；缶ビール1箱。
- ・今野孝裕；缶ビール1箱+5千円。
- ・芹沢清実；大吟醸酒(沙羅双樹・白鴻)4合瓶2本。
- ・東 真澄；5万円(内4万は別途有効使用に一般会計へ)
- ・三井幹雄；1万円。
- ・玉岡憲明；清酒1升。
- ・石橋哲郎；焼酎4合瓶。
- ・井上 訓；焼酎4合瓶。
- ・梶野照雄；小カラビナ50個



記念撮影

◇行事(社会貢献者表彰受賞報告会兼忘年会)会計

収入

会費；@3,000×50名 150,000
 祝儀(林・三井・東・今野) 35,000

収入合計 185,000円

支出

料理；@4,000×52名 208,000
 飲料費(酒・ビール・お茶・焼酎) 25,000
 会場費(阿須賀会館使用料) 2,000
 餅代(畑地；1斗5升) 32,400
 おみやげ代(招待者) 7,600
 宿泊代(青木・梶野ホテル代) 11,000
 記念写真代 6,000
 支出合計 292,000円

収入合計(185,000)ー支出合計(292,000)＝

差引▲107,000円(一般会計より支出)

資料 第47回社会貢献者表彰への参加経緯と式典紹介

社会貢献者表彰とは、広く社会のために、困難な状況の中で黙々と努力し、人々の安寧と幸福のために尽くされて、顕著な功績をあげながら報われる機会の少ない方々の、その功績に感謝し、労い、活動を支援する表彰です。

この度、昨年玉岡憲明氏の緑綬褒章でご尽力頂いた和歌山県からの推薦で、選考書類を提出して頂き、8月9日公益財団法人・社会貢献支援財団の天城 一・専務理事が、審査下見に来新された際に、塩川先生が財団の表彰選考委員をされていたと聞き、先生が83歳で行仙宿に来宿された事を話すと、持経宿への車移動中に急遽行仙宿へ変更し来宿され、審査下見をされました。

財団から9月5日付けで受賞決定の通知があり、10月26日推薦した和歌山県から県政ニュースで発表され、地元紙(紀南新聞・熊野新聞)が報じました、

11月4日に社会貢献支援財団が、表彰選考委員会(内館牧子委員長他3名)の厳正審査により、173件から79件の受賞が決まり、「社会貢献の功績」団体36件、個人15件の計51件の受賞者が正式に発表されました。尚、「人名救助の功績」と「社会貢献の功績で海外に関わる」28件は、来年7月に表彰。

受賞者は、帝国ホテル東京・孔雀の間で執り行われる27日18時からの受賞者懇談会、28日の表彰式典に出席することとなる。出席にあたり、一受賞者4名分の帝国ホテル宿泊費・旅費は、財団が全額負担。

式典のみ参加の招待者は、一受賞者につき30名まで参加可能(負担無)で、9月末まで事前報告し、招待状が發送される。

玉岡さんに是非参加して欲しいとお願いしたが、体調の不安から固辞され、又新宮地区で世話人等の主だった人に表彰式典への参加要請をしたが断られ、当るーぶから山上・川島・沖崎・梶野、招待者として神奈川県大和市の伊賀敷ご夫妻が表彰式典に参

加する事になる。

表彰式典は、内閣府・総務省・文部科学省・国土交通賞などの後援の下、約600名が参席し、式典次第により内閣総理大臣夫人・安倍昭恵会長の挨拶、「瑤子女王殿下おことば」になっていましたが、三笠宮家は喪に服されていてご欠席、内館牧子表彰選考委員長より厳正な審査経過等の挨拶後、各受賞者が登壇して安倍昭恵会長より表彰状授与並びに副賞の日本財団賞50万円の贈呈(当日、口座振込)を受けました。

第47回「受賞者51件の社会貢献の功績」

①精神的、肉体的な著しい労苦、危険、劣悪に状況に耐え、他に尽くされた功績。②困難な状況の中で黙々と努力し、社会と人間の安寧、幸福のために尽くされた功績。③先駆性、独自性、模範性などを備えた活動により社会に尽くされた功績。

④海、山、川などの自然環境や絶滅危惧種などの希少動物の保護に尽くされた功績。

新宮山彦ぐるーぶのプロフィールは、和歌山県新宮市で昭和49年に結成された会員数約50名の自然保護団体。紀伊半島を縦断する「大峯山脈」には、「大峯奥駈道」と呼ばれる修験の道があったが、明治維新後の神仏分離令・修験道廃止令により、長期にわたって藪に閉ざされ荒廃化が進んでいた。こうした大峯奥駈道の惨状を目の当たりにし、その豊かな自然環境、文化的な景観を保護・保全し後世に伝えようと、昭和50年から55年にわたり、延1600回以上環境整備に取り組んで来た。

尚、第47回の受賞者一覧と受賞者のプロフィールは、社会貢献支援財団のブログに掲載されていますので、検索閲覧して下さい。

日本財団とは、財団法人・日本船舶振興会の初代笹川良一没後の平成23年から公益財団法人・日本財団(笹川陽平・代表理事会長)となる。競艇の収益金を元に各分野へ助成金を出し支援をしている。

以上